

そこで、今日は**黙示録 16 章**。いよいよ、もういよいよですよ、神様の最も恐るべき裁きが下って行く箇所を見たいと思います。その前にちょっと復習です。

患難時代という 7 年がやって来ます。患難時代は前半の 3 年半と後半の 3 年半に分けられます。黙示録では、前半の 3 年半に起こることを【**7 つの封印**】と【**7 つのラッパ**】で紹介し、前半の 3 年半に 12 の出来事が起こります。7+7 で 14 じゃないか？ もちろんそうですが〈7 番目の封印は 7 つのラッパの合図〉〈7 番目のラッパは 7 つの鉢の合図〉なので、実際は出来事として 6+6 で 12 なんです。前半の 3 年半に 12 の災いが起こります。

今日紹介するのは【**7 つの鉢の裁き**】。これは後半 3 年半、断続的に起こるのではなく、恐らく患難時代ラスト 1 か月以内にダダダッと短期集中で起こると思います。1 か月でなくても数か月、もしかしたら数週間かもしれない。3 年半の間 7 つの鉢の裁きが 1 つずつ断続的に続くのではなく、もう最終局面の 1 番短期集中で、この裁きが反キリスト帝国の上に降りかかってくる。

なぜ後ろに凝縮されて起こるのか？ 今から紹介する 7 つの鉢の裁きは、3 年半も続いたら人類 1 人も残りません。凄まじい内容です。3 年半もそんなことが続いたら、生き延びる人間は 1 人もいません。恐るべき裁き。なので、1 番最後の最後。それまでの前半 3 年半に起こった〈7 つの封印と 7 つのラッパの裁き〉は警告です。しかし、最終的裁きということで、反キリスト帝国の上に下る 7 つの鉢の裁き。

ざっくり言うと、反キリスト帝国を終了させるための神の裁きが行われるのですが、今日は時間の都合で 7 つのうちの 5 つのみを紹介します。6 番目と 7 番目は世界最終戦争（ハルマゲドン）の預言になるので、時間的に とてもじゃないけどカバーできません。だから 1~5 番目の裁きについて考えます。

今日のお話のポイントは 3 つです。

- 1) 神の裁きは真実で公正で正義に基くもの。残忍さに基くものではない。
- 2) 神は最後まで悔い改めを望んでおられる。
- 3) 大患難時代から逃れる方法は何か。

黙示録 16 章 1 節。また私は、大きな声が神殿から出て、七人の御使いに、「行って、七つの鉢から神の憤りを地に注げ」と言うのを聞いた。

私は黙示録を書いているヨハネ。ヨハネは大きな声が神殿から出るのを聞いた。誰の声でしょう？ 神殿から出た大きな声の持ち主は創造主なる神です。

なぜなら **15 章 8 節**。神殿は、神の栄光とその御力から立ち上る煙で満たされ、七人の御使いたちの七つの災害が終わるまでは、だれもその神殿に入ることができなかった。

神殿は神以外立ち入り禁止状態。神以外だれも入ることができない神殿から出て来た声だから、この大きな声は神の声です。

神の声は**大きな声**。大きなはメガレースというギリシア語で形容詞です。

黙示録 15 章は黙示録の中で 1 番短い章。そして 16 章には、メガレースが 11 回出て来るんです。

大きな大河ユーフラテス・大きな都バビロン・大きな雹が降って来て・神の大いなる裁きの日など。

なぜ**大きな**ということが紹介されているのでしょうか？ なぜ 7 つの大きな裁きが、ここで下らなければならぬのでしょうか？

この患難時代後半の3年半は、とてつもなく大きな力を持つ反キリスト帝国が人間を支配する時代です。とてつもなく巨大な力で人間をコントロールしている反キリスト帝国を終了させるには、反キリストをはるかに上回るもっと大きな力で介入しない限り、トドメを刺すことができないのです。なので、**大きな声**によって、大きな7つの災害が天から降って来ます。

1 番目の裁き

2 第一の御使いが出て行き、鉢の中身を地に注いだ。すると、**獣の刻印を受けている者たちと獣の像を拝む者たちに、ひどい悪性の腫れものができた。**

神が**悪性の腫れもの**、重い皮膚病を与えたと書いてありますが、“全人類に”とは書いてない。反キリストに従う者たち限定なんです。つまり、雇ってない人たちがいる。

反キリストと呼ばれている**獣**…黙示録には反キリストという言葉は1回も出て来ません。全部**獣**です。獣というのは調教できない動物でしょ。人間がどんなに束になって掛かっても、この人物を調教することはできません。誰もかなわない…。

この**獣/反キリスト/独裁者**に従って行く者たちだけにできる**腫れもの**なんですね。

もう少し詳しく見ると、**獣の刻印を受けている者たち**。右手か額に666の刻印を受けている者たち。それと、**獣の像を拝む者たち**。刻印は受けてないけど、獣の像を拝むと決心した者たちも含まれているようですね。その者たちにのみ、非常に選別的に・選択的にこの**腫れもの**が出来たので、単なる流行り病やパンデミックではなく、偶然たまたま罹った病気ではなく、上からのものだど誰もが分かる病気です。これが1つ目の裁きです。

2 番目の裁きは、人間にではなく地球の自然界に対する裁き。

3 第二の御使いが鉢の中身を海に注いだ。すると、**海は死者の血のようになった。海の中にいる生き物はみな死んだ。**

ラッパの裁きの時に1/3の海の生き物が死にましたが、その2倍、残り2/3が全滅した。

今 小笠原諸島かどこかの所で海底火山が出たので、軽石が沖縄や色んな島々に押し寄せて…。いつもきれいな砂浜なのに、エメラルドグリーンの海なのに軽石がびっしり浮かんで、これ どうするの？と思ってたら、翌日忽然と姿を消してよその島に行くという。黒潮の流れに乗って、11月末には本州にも届くそうですね。

ぷかぷか浮かんでいる物は最終的には岸边に来ます。海洋生物全滅したら、みな浮かんでいきますよ。海の中の全ての生命体が海上にぷかぷか浮かんで それぞれの国の海岸に辿り着き、見渡す限り海洋生物の死体で埋め尽くされる。腐るんです。その汚臭！ もう息もできないような状態。

それだけではない。海岸線ではなく、ずっと奥地にいてる人間たちもこの影響を受けると思いますね。地球表面の7割は海です。陸地は3割しかない。7割の海が3割の陸地を生存圏にするために支えているんです。7割の海が陸地を支え、3割の陸地が海を支え、互いに相互依存しているんですね。絶妙な比であると言われてています。

ところで、海の中には植物プランクトンがいて光合成しています。光合成とは二酸化炭素を吸って酸素を出すんですよ。海が供給している酸素の量は、陸上植物が供給している量とほぼほぼ同じだと言われています。今地球を取り巻いている大気の酸素濃度は20.9%で、その半分は陸上から、半分は海上からの供給です。海からの酸素供給が無くなると、今の酸素濃度が単純計算で半分になるということ。

これは、平地に住んでいても標高4000mの高地生活をしているような状態です。
富士山の頂上に無酸素で行ったら、ある人は「空気薄すぎてしんどい！」となるんじゃないですか？

打たれたのは海だから、陸地に住んでいる我々には関係ない…そんなことはない。
海が健康だと地球環境も良くなります。海が全滅したら、大陸に住んでいる者たちもその影響をモロに被るのです。これが2番目の裁きです。

この段階で、地球はもはや人間が住むにはふさわしくない状態に傾き出しているのが分かりますね。
今まで多くの恵みによって世界は支えられてきましたが、地球に生きることが苦痛で不便でしんどくてたまらない環境に移り出す。

3番目の裁き

4 第三の御使いが鉢の中身を川と水の源に注いだ。すると、それらは血になった。

地球上に存在する水の97%は塩水です。淡水わずか3%。その中で人間が利用できるのは0.1%です。
水の源は泉や水源地ですよ。水源地から川が流れ海に注ぐのですが、人間や動物の生命活動に無くてはならない淡水が、水源地で汚されてしまって血になった。

食べなくてもしばらくやっていけるとしても、飲まなかったら持たないですよ。
だから、血なのに飲むんです。汚れた水にもかかわらず、それを飲むようになります。

この裁きが下った時、2種類の者たちが「神よ、これをしたあなたは正しい」と言って神を賛美すると、ここに書いてあるんですね。「あなたはきつすぎる。厳しすぎる。冷酷だ。残酷だ」ではなく「神よ、あなたは正しいです。」聖書に“2人の証言は真実である”とありますが、“真実な言葉です”という意味です。

5 また私は、水をつかさどる御使いがこう言うのを聞いた。1つ目の種類は御使いです。

「今おられ、昔おられた聖なる方、あなたは正しい方です。このようなさばきを行われたからです。」

6 彼らは聖徒たちや預言者たちの血を流しましたが、あなたは彼らに血を飲ませられました。彼らにはそれがふさわしいからです。」

「彼らは多くの聖徒たち、すなわち患難時代にキリストを信じた人たちや、彼らに遣わされた預言者たちを殺しました。血を流しました。自分たちがしたことが今返って来ています。正しいことです。」

血を飲ませられました。血を飲ませるとはどういうことなのかを考えたいと思います。

ヘロドトス（BC5世紀/生没年不詳）は『歴史』という本の中で、ペルシア帝国を造ったキュロス2世について、ずいぶん詳しく書いています。

アケメネス朝ペルシアを造ったキュロス王は、聖書では良い者として出て来ます。

ユダヤ人たちに「ユダヤに帰ってもいいぞ！神殿建て直してもいいぞ！」と許可を与えた王様。

キュロス王（在位BC550-BC529）の時代 4大国がありました。

①メディア帝国 ②リディア帝国 ③バビロニア帝国 ④エジプト帝国。

キュロスはエジプト以外の3つの国を平らげてしまった王様です。この3つの国をペルシアの下に従えて、ペルシアは巨大な帝国になりました。それだけではなく、東のアジアに向かってどんどん広がって行って、最終的に中央アジア制覇にまで乗り出します。

そこにマッサゲタイという国がありました。別に覚えなくてもいいと思いますが。マッサゲタイは今のウズベキスタン辺りにあった国で、王が早くに亡くなり、女王トミュリス（BC530頃）が治めていました。キュロスはこの国が欲しい。それでプロポーズ。「私の妃になってくれんか。」これは政略です。結婚して武力を使わずに「妻の国はわしの物」ということで、後でどうなりとこの女王を始末できる。キュロスの本心が分かっているので「騙されてなるものか」と断ります。

断られたキュロスは「よくも恥をかかせたな！」と、これを口実にマッサゲタイに攻め込むんです。聖書の中ではものすごく良い者だけどね、他の国々にしてみれば たまったもんじゃない。とにかく貪欲。「俺の物は俺の物。お前の物は俺の物！」って、ジャイアンみたいな感じですね。

いよいよ川を渡って上陸した時、元リディアの王がキュロスに進言しました。「作戦立てましょう。我が軍の中で最も弱い部隊をこの川岸に置いておき、その部隊の周りに我々が持っている1番の食料・ごちそう・お酒を山のように積んで、そして主力部隊はしばらく姿を隠していきましょう。」その通りにしました。

「我が国に上陸したペルシア軍をやっつけろ！」とマッサゲタイ軍の主力部隊がやって来て、ペルシアの1番弱い部隊なので簡単に蹴散らして、「ペルシアって、言うほどのもんじゃない！」ふと見たら、食料やらお酒やらいっぱいある。たらふく飲み食いして身動きできなくなっているところに、隠れていたペルシア軍がバサッと覆いかぶさってほとんど全滅。残ったわずかな者たちは捕虜。

この捕虜の中にトミュリス女王の息子がいたんです。「息子を返してくれ！」キュロスは賢いですから、「返してやったら俺の言うこと ちょっと聞かかな」と思ったかもしれませんね。なので、息子が「王よ、この縄を解いてください」と頼んだ時、貸しを作っておこうと、「この者の縄を解いてやれ。」解いたら即、自害した。

その情報が女王の耳に入った時、「よくも跡取りの王子である息子を殺したな！」マッサゲタイ国がむちゃくちゃ怒って、ペルシアの軍隊に死に物狂いで飛び掛かって行き、それでキュロス王は戦死したんです。今まで3大国を制圧できたのにマッサゲタイにやられた。まあね、戦闘スピリットがちょっと違ったみたいですね。

キュロス王を倒した後 トミュリス女王は彼の首を落とし、血がいっぱい入った革袋の中に彼の頭部を沈めるんです。そして、こう言ったと言われています。「自分の野心のために 今まで多くの人々の血をおびたたく流して来たキュロスよ、おまえは血を飲め。多くの人の血を流して来たのだから、今度はおまえがその血を飲め。」

「その血を飲め」というのは「おまえ自身が血に染まり、自分がしたことを自分で刈り取れ。血を流したおまえに同じことが返って来たのだ。」要するに復讐。報復。やったことがそのまま返って来る。

6 彼らは聖徒たちや預言者たちの血を流しましたが、あなたは彼らに血を飲ませられました。彼らにはそれがふさわしいからです。

つまり、患難時代7年間におびたしい血が流された。誰の血かという、彼らに福音を伝えた人たち、イエス・キリストを信じている人たち、預言者たち。彼らの血を大量に流して来た。にもかかわらず、裁きが行われずほったらかしにされて来たけど、とうとう今決着がついた。「あなたが正しいです」という意味ですね。

2つ目の種類の人たち。

7 また私は、祭壇がこう言うのを聞いた。「しかり。主よ、全能者なる神よ。あなたのさばきは真実で正しいさばきです。」

祭壇は、人間が神に近づくために動物を献げますが、その動物を焼く場所です。

祭壇には上と下があって、祭壇の上には動物の肉を置き、祭壇の土台にはいけにえの血を注ぎます。

黙示録 6 章

9 子羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てた証しのゆえに殺された者たちのたましいが、祭壇の下にいるのを見た。

これは封印の時代（患難時代前半）。天の祭壇の下にいるのは殉教者です。

祭壇の下は何をする所か？ いけにえの血は祭壇の土台に注ぎなさいと書いてあります。

10 彼らは大声で叫んだ。「聖なるまことの主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者たちに私たちの血の復讐をなさないのですか。」

11 すると、彼ら一人ひとりに白い衣が与えられた。そして、彼らのしもべ仲間で、彼らと同じように殺されようとしている兄弟たちの数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいるように言い渡された。

殉教者たちは叫んでますね。「何の罪もない人たちが、キリストを信じているために拷問され 虐殺されめちやくちゃになっています。正義の神様、いつまで何もしないでほっとかれるんですか?!」

聖書を見ると、“血は叫ぶ”と書いてあるんですね。最初の殉教者アベルは、死後“その血が叫んでいる”と書かれました。

祭壇が叫んでいたというのは、祭壇がパクパク口を出して喋り出したんじゃないで、祭壇の土台に注がれた殉教者の血の「正義の実現を早くしてください！」という祈り。

その祈りが遂に応えられたのが、この第3番目の封印ですよ。

16:7 また私は、祭壇がこう言うのを聞いた。「しかり。主よ、全能者なる神よ。あなたのさばきは真実で正しいさばきです。」

中国の不動産王で巨万の富を築いた郭文貴（かく ぶんき/1970-）、中国情報マニアの人は知ってると思いますが、中国共産党が北朝鮮のミサイルよりも恐れている。

彼は巨万の富を不動産業で儲けますが、習近平がトップになって汚職追放運動なんかがありましたよねそれで、郭文貴の後ろ盾になっている共産党幹部が失脚しました。

「このまま黙って中国におったら、俺が築いた巨万の富は全部横取りされる。」

2014年アメリカに亡命し、その後 中国共産党幹部の秘密の中の秘密をブワーツと暴露し出すんです。特に習近平の片腕と言われた王岐山（おう きざん）、腐敗撲滅運動の先頭に立っているこの人物が、いかに欲にまみれて汚いことをやってきたかをアメリカで言ったんですが、彼が言った内容はごく一部。つまり「これ以上言われたくなかったら、俺の会社に手出すなよ。これ以上喋られたくなかったら、俺を脅すのをやめろよ。俺はもっとすごいことを知ってるんだぜ！」 もうしゃべくりまくるんですね。

最近彼が「今まで言ったことは全部ウソや！」と。手打ちしたんです。習近平と。

でもね、とてもウソとは思えないんですよ。

この問題に詳しい、郭文貴をずっと追跡し続けているジャーナリストがいます。日本人で。

野村旗守(のむら はたる/1963-)という方。彼に女性ジャーナリストの大高未貴(おおたか みき/1969-)さん(時々 虎ノ門ニュースの“ミキペディア”で出て来る人)がインタビューしました。大高未貴さんは色々なジャンルで非常に鋭い取材をなさるのですが、特に中国の臓器売買について取材しています。

この場所でも何度も紹介したことがありますね。私たちの身体はうまくできてますが、もう薬や手術ではどうしようもなく、他の人の臓器に交換するしかない。臓器移植が最後の手段という人たちもたくさんいますよ。そういう方々はドナーになってくださる方を待ってるんですが、脳死状態にならないと臓器取れないです。いつ・誰が脳死状態になるか分からない。

皆さんの健康保険証の裏に“臓器移植同意しますか。どこまでいいですか。角膜ならいいですか。”あれほんとに、皆さん白紙なんですって。嫌やったら嫌やって、印したらいいんですよ。嫌もないんです。大抵の人は「めんどくさいからええわ」言うてね。皆さん、書きましたか？ 僕 書いてますよ。

例えば腎臓の臓器移植、平均待機期間は15年です。待ってる間に亡くられる方がたくさんおられます。なぜ15年も掛かるのか？ 腎臓だったらどんな人の腎臓でもいいのではなく、細胞適合性/拒絶反応が起こりにくい細胞を持った腎臓でないとダメなんです。だから、順番通りに行かないんです。ちょうどピッタリの臓器が回って来るのに15年掛かると言われているのです。

それが、中国では1週間。お金積んだら3日が出て来るって。なぜそんなにピッタリの臓器が出て来るのか？ なぜ急にタイミングよく脳死する人が出て来るのか？ 脳死したんじゃないかってね、臓器狩りを国家がやってる。

誰の臓器を取っているのか？ 3つ。

- ① 法輪功(ほうりんこう)という気功集団。今1億人くらいいてると言われています。
- ② ウイグル人。新疆ウイグル自治区の人たち。彼らはイスラムの教えを守っているからお酒飲まない。非常に健康的である。
- ③ 一部の家の教会のクリスチャンたち。

それがどこに書いてあるのかという『国家による臓器狩り』。ユダヤ系の弁護士 デービッド・マタスが徹底的に調べ上げて書いた本で、日本語にも翻訳されています。前書きを読んだだけで、こんな恐ろしい事が今世の中で起こっているんだぞという。今世界中で「けしからん！ 臓器移植のために中国に渡るのをやめよう！」と議会などで決議してるんです。

ところが、日本では決議しないんです。発案する人もいない。そもそもマスコミがこれを取り上げない。なぜ取り上げないのかを聞くために、大高さんが中国の内部情報に詳しい野村旗守さんにインタビューしたんです。

「理由がある。郭文貴によると、中国は4つ(4色)のトラップを掛ける。金・赤・青・緑の4色。
◆金はマネートラップ。例えば、政治家の親類が中国に企業進出して工場建てる時に便宜を図る。賄賂もあるでしょう。会計上 表に出せないようなお金。

◆赤はハニートラップ。セックス絡みの事。女性を罠にして罠に掛ける。カネと女ですよ。

◆青はブルースカイの青。ネット空間を通して相手国の要人(財界人・政治家・影響力のある人たち)の個人的な秘密や情報を盗み取る。サイバー攻撃で国家の中枢にいる人の個人的な秘密を盗み取る。

◆緑は医療トラップ。臓器移植。これはかなり前からやっている。今“中国の臓器移植は、国家による臓器狩りに基いているのではないか” とかなり有名になったけど、2004 年以前はそんなに有名じゃなかった。

特に政治家は高齢者が多い。内臓ポロポロの人が多。無理な生活をしているから。

なので、中国からの招聘で『先生、いかがですか？臓器移植。』

提供者が自分の意思ではなく、無理やりやられてるんだということを知らずに（知らずに！）、中国に渡って手術をした日本の政治家や家族・財界人・マスコミの人たちが相当いる。

一旦中国でそんな手術をした場合、そのデータは中国に残っている。

もし日本で、『中国の臓器売買は許しがたいことだ！臓器移植手術はけしからん！』となったら、『あ、そう。じゃあ、あなたは？』と突っ込まれた時 弁解できない立場の人たちが日本の政権中枢の中に、自民党の中におる。ので、議題として出て来ない。』

悪があると分かっているけど、中国は目に見えない攻撃で相手を黙らせることができるので、結局 悪は裁かれないまま、そのまんまに放置されるんです。

もし皆さんのご家族・お子さんが臓器狩りの対象になったとしたら、はらわた煮えくり返りませんか？

「そんな事が許されてたまるか！」 その義憤というか怒りというか。

何十年も続いているのに、日本は未だに非難の声一つ上げることができない。だから このままズルズルと行く。

しかし、やられている人たちはこう思っているんじゃないですか？

「もし神がおられるなら、一刻も早く裁いてください。彼らは途方もない政治権力を持っているので、どんなに悪辣な事をして、裁きを免れてのうのうと生きています。神よ、正義の神がおられるのなら、どうぞ正しい裁きをしてください！」 そう祈っているんじゃないですか？

中国で行われていることが世界的規模で実現するのが反キリスト帝国です。獣の国です。

それを終了させるために、神が鉢を注ぐという裁きを行っている。

遂にその祈りが応えられて、神の介入が始まったと聞いた時、「主よ、全能者なる神よ。あなたのさばきは真実で正しいさばきです」という賛美が出て来たと言うんですね。

皆さんの中にも、生涯で不当な扱いをされてそのままという方、おられるんじゃないですか？

最終的には神様がかたを付けます。これを信じているからこそ正気を保って、騙されても「騙し返してやろう」じゃなく、「真っ当に生きよう」という動機付けになるんじゃないでしょうか。

4 番目の裁き

8 第四の御使いが鉢の中身を太陽に注いだ。すると、太陽は人々を火で焼くことを許された。

9 こうして人々は激しい炎熱で焼かれ、これらの災害を支配する権威を持つ神の御名を冒瀆した。彼らが悔い改めて神に栄光を帰することはなかった。

1 番目は反キリストに従う人間への裁き。2 番目・3 番目は自然界に対する裁き。4 番目は宇宙の裁きです。

太陽の温度が上昇する。昔 私は核兵器のことをたとえているんじゃないかと。

水爆というのは核融合反応で爆発しますね。太陽は宇宙空間にあるので空気が無い。酸素が無い。

酸素が無いのに、なんで太陽は燃えてるんですか？ 太陽の材料は水素です。水素原子が太陽自身の重みによって押し潰されて、核と核が融合してるんですね。

その時にエネルギーが放出されることによって、太陽から光とか熱を受け取っているわけです。だから、水爆のようなものが使われるんじゃないかと。

ただここで“太陽のようなものが”と書いてるんじゃないなくて、**太陽は人々を火で焼くことを許された**。聖書は字義通りに解釈しなければなりません。“太陽”と書いてあったら、“太陽のようなもの”ではなく“太陽”と解釈すべきなんですね。

そもそも、これは神の裁きなんです。神が反キリスト帝国を裁くのに、なんで人間が造った兵器に依存しなければならぬいんでしょう。人間が造ったものを頼りにしなければならぬほど、神は弱くない。

文字通り、**人々は激しい炎熱で焼かれる**。

激しい炎熱という言葉はメガレース。“大きい炎熱”が直訳です。“大きい”が11回出て来るのですが、日本語では出て来ません。別の訳になってるから。でも、ギリシア語では同じ言葉なんです。

8 **すると、太陽は人々を火で焼くことを許された。9. こうして人々は激しい炎熱で焼かれ、人々とは、地上に住んでいる全人類のことではありません。**

ギリシア語ではトゥース アントロブース。アントロブースは“人々”。トゥースは“それらの/その”。それらの人々。その人々。獣に従う人たち。

腫れものが獣に従っている人にものみ発生したように、**血を飲む**のも、全ての人ではなく獣に従っている人たちだけです。

黙示録 6:6 **彼らは聖徒たちや預言者たちの血を流しましたが、あなたは彼らに血を飲ませられました。ここの血を飲む彼らは全人類じゃないんです。聖徒たちや預言者たちの血を流した人たち限定。聖徒たちや預言者たちを死に至らしめた人たちが血を飲む。腫れもので打たれる。火で焼かれる。限定。**

9 **こうして人々は（その人々は・それらの人々は）激しい炎熱で焼かれ、これらの災害を支配する権威を持つ神の御名を冒瀆した。**

これは、突然太陽がおかしくなったというよりも、神から来た裁きだということ意識しています。

太陽の温度が上昇するのか（いわゆるスーパーノヴァ/超新星の状態）、太陽と地球の距離が縮むのか、太陽と地球の間にある地軸の磁気の状態や、クッション材となっている物が弱くなっているのか、それは分かりません。分かりませんが、地上に届いている状態においては、人々を焼くのに十分なエネルギーを放出している。その時、「これは神から来ている。**これらの災害を支配する権威を持つ神が、我々にやっている**」と意識してるんですね。

なぜそれが分かるのか？ まず、炎熱に焼かれない人たちがいるからです。

例えば、14万4千人のユダヤ人たちは焼かれませんが。彼らは7年間の患難時代を生き通して、1人も殉教しません。「イエスをメシアと信じている人たちは無害なのに、我々にのみこのような事が起こる。彼らが信じている神は本物の神だ！」と分かっているんですよ。分かっているのに呪うんですね。

なぜ分かっているのかの理由が もう2つほどあります。

1) 患難時代の人たちは14万4千人によって御国の福音を聞いています。

その中の黙示録によるメッセージで、このような裁きが下ると書いてあり、その通りのことが起こってる。だから、“これは神から来た”ということが分かっているんです。

2) 御使いが永遠の福音を語っています。それによると「神を恐れよ。創造主を恐れよ。」すなわち、「創造主ではない反キリストから離れなさい。それを捨てなさい。」彼らは知識としては、今何が起きているのか、これは偶然的な自然現象じゃなく神からの裁きだと分かっている！のに悔い改めないで、これらの災害を支配する権威を持つ神の御名を冒瀆した。冒瀆…。なぜ拒むんだらう。全然合理的じゃないと思うんですが。

マザー・テレサがこう言っています。

「思考に気をつけなさい。それは いつか言葉になるから。
言葉に気をつけなさい。それは いつか行動になるから。
行動に気をつけなさい。それは いつか習慣になるから。
習慣に気をつけなさい。それは いつか性格になるから。
性格に気をつけなさい。それは いつかあなたの運命になるから。」

思考が言葉を生み、言葉が行動を生み、行動が習慣を生み、習慣が人格を造り、その人格が呼び起こし 引っ張り込んでしまう運命は、その人格にふさわしいものである。

「否定的な考えを持っていたら 否定的な言葉を使うでしょう。否定的な言葉は やがて否定的な行動になり、否定的な行動はそれが習慣になり、否定的な性格が形成され、否定的な人生の結末に行くでしょう。何を選択するのか。どんな行動を選び取るのか。その選び続けていることが、やがて自分の人格の中に焼き込まれて性格になってしまいますよ」と言ってるのですね。

ナチスはユダヤ人が大嫌いでした。だから迫害したんです。しかし、ユダヤ人を迫害することによって、もっと憎く思うように変わっていった。人間は選択する方向にエスカレートするんです。

なぜ、こんなにも明白な神からの裁きのしるしを見ていながら、悔い改めることができなかったのか？ 神に反逆することが習慣化し、それが人格となり、悔い改めることができなくなっていたのです。これは神のせいではなく、チャンスが十分あるにもかかわらずそれを退けて、故意に わざと 反逆のほうを選択し続けた結果、悔い改めたくてもそれができない状態にまで陥っている。患難時代の最終局面では、生き残っている人の大半は反キリストに従っています。そうでない人たちはごくわずかしかないことが予測されます。

5 番目の裁き

10 第五の御使いが鉢の中身を獣の座に注いだ。すると、獣の王国は闇におおわれ、人々は苦しみのあまり舌をかんだ。

11 そして、その苦しみと腫れもののゆえに天の神を冒瀆し、自分の行いを悔い改めようとしなかった。自分の行いを悔い改めようとしなかったという言い回しの中に、「獣の刻印を受けてはいないけど イエスをメシアとしては信じていない人たちが、この苦難を通してぜひ悔い改めてほしい」と神が願っておられる。そう読み取ることができると思います。

獣の座とは獣の王座のこと。実は反キリスト帝国には首都があって、そこに獣の座があります。その首都はバビロン。現イラクです。バグダッドではない。昔バベルの塔が建っていたあの場所に、もう1度都が再建され、そこに反キリストは王座を築き 着座しているのです。

第五の御使いが鉢の中身を獣の（王）座に注いだ。すると、獣の王国は闇におおわれ、人々は苦しみのあまり舌をかんだ。5 番目の裁きは暗闇です。

さて、腫れものができた、水が血に変わった、暗闇になった、色んなことを言いましたが、これと似たことが 3500 年前、出エジプトの時に起こっています。

神はエジプトで奴隷状態のイスラエルを解放するために、モーセをリーダーにしてエジプトから脱出させようとするのですが、その時のエジプト帝国の王ファラオが中々行かせようとしません。

なので、10 個の災害を下すんです。その中のいくつかが、黙示録の 7 つの鉢の内容と重なります。

(出エジプトの) 5 番目は家畜に腫れものができる。しかし不思議なことに、イスラエル人の家畜にはできなかつたと書いてあります。6 番目。かまどのすすを空中に放り上げると、偽預言者・呪術者たちに腫れもの・発疹ができて非常に苦しむけど、イスラエルは罹らなかつた。更に、大きな雹が降って来て作物がむちゃくちゃになった。しかし、イスラエルが住んでいるゴシェンの地には降らなかつた。

出エジプト 10 章

21 主はモーセに言われた。「あなたの手を天に向けて伸ばし、闇がエジプトの地の上に降りて来て、闇にさわれるほどにせよ。」

22 モーセが天に向けて手を伸ばすと、エジプト全土は三日間、真っ暗闇となった。

23 人々は三日間、互いに見ることも、自分のいる場所から立つこともできなかつた。しかし、イスラエルの子らのすべてには、住んでいる所に光があつた。

エジプト全土を襲っているけど、イスラエルの民は それらの災害危害を一切受けていないことが分かります。

黙示録 16 章に出て来る 7 つの災害は、その対象がいつも明確です。“彼ら”。“その人たち”。

獣に従う人たちにのみ その事が起こるので、彼らは神からのものだと言える。

つまり、神の裁きは受けるべき人の上に確実に下るが、受けなくてよい人の上には決して来ないのです。

だから、この方は真実で・公正で・正義なる方だと言うことができるのです。

3) 大患難時代から逃れる方法は何か。

患難時代のクライマックス 7 つの鉢を別の言葉で言い表しています。

黙示録 16:1 また私は、大きな声が神殿から出て、七人の御使いに、「行って、七つの鉢から神の憤りを地に注げ」と言うのを聞いた。

七つの鉢は別の言葉で神の憤り。神の御怒り。大患難時代とは何ですか？ 神の憤り。神の御怒りのこと。

これを頭に入れながら I テサロニケ 1:10

御子が天から来られるのを待ち望むようになったかを、知らせているのです。この御子こそ、神が死者の中からよみがえらせた方、やがて来る御怒りから私たちに救い出してくださいのイエスです。

御子は神の子。御子が天から来られるのを、クリスチャンたちは待ち望んでいる。

では、何のために御子は天から再び来られるのでしょうか？ やがて来る御怒りから私たちに救い出してくださいのため。やがて来る、将来やって来る御怒り（神の怒り）から私たちに救うために御子イエスは来られる。

時々 患難時代の前に、クリスチャンたちはキリストによって天に引き上げられる（携挙される）と言うと、「どこにそんなこと書いてあるんだ?!」と仰る方がいるんです。それだけでも、ゆっくり話すと 1 時間以上になってしまいます。僕は個人の『ごうちゃんねる』で、「患難時代の前にそれがある」と今言ってるんです。そしたらコメント欄がですね、皆さん 好きなこと書かれますよ。

ちょっと話変わりますが、今日の発表で YouTube の親会社のグーグル社がね、コメント欄のノーグッド表示の取りやめを決めました。押すことはできます。でも数字はカウントされません。

なぜかという、YouTube の製作者がそれを見て落ち込むからです。それどころか、それを見て自殺まで行く人 いっぱいいてるんですよ。ただ、作っている人はその数字を見ようと思えば見れる。

結局一緒やと言うかもしれませんが、どれだけノーグッドが多いかを色んな人に見られずに済む、という効果はあるんですよ。

私もね、たくさんもらいました。あまり気持ちがいいもんじゃありませんよ。気持ちが良くないどころか、なんかこう うるさい！とかね。「あなたの聖書解釈はおかしいからもう見ません！去ります！」とか書いてある。「あ、去るんやな」と。「残念やな」と思いながら見送るわけでございますが。

では、今の私たちが患難時代に至らないためにどうしたらいいか？

ここの箇所を見ると、イエス・キリストを救い主として信じるのが唯一の解決策なんです。

患難時代の前に、クリスチャンたちは天に引き上げられます。なぜ分かるのか、三段論法でお話します。

①犬はワンと鳴く。②うちのポチはワンと鳴く。③したがって、うちのポチは犬である。

難しくありませんよね。これを用いて、患難前携拳を説明したいと思います。

①患難時代とは神の怒りである。② I テサロニケを読むと、クリスチャンは神の怒りに遭わない。

③したがって、クリスチャンは患難時代にいない。

これが 1 番簡単な説明ではないかなと。他にも、ややこしく言おうと思ったらなんぼでも言えるんですけど、これでいいのではないかなと思います。

ところで、なぜキリストを信じるなら私たちの罪が赦されるのか？

先ほど、獣の国が暗くなったとありましたが、この暗闇は神の怒りを表しています。

イエス・キリストが十字架に掛かった時、12 時から 3 時まで全地が真っ暗闇になったと書いてあって、その瞬間、神は全人類の罪の裁きをイエス・キリストに振り下したんです。

それは、7 つの鉢の裁きよりも はるかに深くて大きい裁きです。

このキリストが、私たちのために身代わりになって裁きを受けてくださいました。

山火事は、どんなに速いスピードで逃げても火の回りのほうが早い。火に取り囲まれたら、助かる方法は 1 つしかありません。自分の足元を、まず火をつけて焼くこと。火事の時には、自分の足元を火で焼き払うことが有効です。焼き払ってしまうと、もはや燃やすものがないので火は来ないのです。

既に燃えた所に立つ。これが唯一の安全圏です。

既に神の怒りによって焼き尽くされた方のところに逃げ込む。これこそ究極の安全圏です。

キリストは 1 度 全人類のために死んでくださった。裁きを受けてくださった。墓に葬られた。

そして、3 日目によみがえってくださった方です。

だからこそ、この方を自分の救い主として受け入れる人は絶対に安全なんです。

いかがでしょうか。この方の内に避難することが、患難時代を免れる唯一の道です。

ぜひイエス・キリストを、この恵みの時に信じ受け入れてください。心からお勧めします。

^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^

- * 使用した聖書は『聖書 新改訳 2017』
- * 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」
- * ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(約 15 分) もぜひどうぞ。YouTube もあります。
- * YouTube 「[ごうちゃんねる](#)」もぜひ見てください。